(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4870879号
(P4870879)
(45)発行日　平成24年2月8日(2012.2.8)　(24)登録日　平成23年11月25日(2011.11.25)

(51)Int.Cl.　　F I
B65F 1/14 (2006.01)　　B65F 1/14 E
B65F 1/00 (2006.01)　　B65F 1/14 Z
　　B65F 1/00 C

請求項の数 2　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願2001-220027(P2001-220027)
(22)出願日　平成13年7月19日(2001.7.19)
(65)公開番号　特開2003-34404(P2003-34404A)
(43)公開日　平成15年2月7日(2003.2.7)
審査請求日　平成20年6月23日(2008.6.23)

(73)特許権者　000010054
岐阜プラスチック工業株式会社
岐阜県岐阜市神田町九丁目２７番地
(74)代理人　100087767
弁理士　西川　惠清
(74)代理人　100085604
弁理士　森　厚夫
(72)発明者　竹内　由文
岐阜市神田町９丁目２５番地
岐阜プラスチック工業株式会社内

審査官　長谷井　雅昭

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ごみ箱

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
上開口部に開閉自在な蓋を設けたごみ箱の下面部にキャスターを設けてごみ箱を移動自在とし、該キャスター付きのごみ箱の側面上部に把手を側方に向けて突設し、この把手の突出先端部を上方に向けて突出してごみ袋引っ掛け部とし、このごみ袋引っ掛け部を蓋の外端部の側方に隙間を介して位置させて成ることを特徴とするごみ箱。
【請求項２】
上下方向に複数のごみ容器を着脱自在に重ねてごみ箱を構成し、最上段のごみ容器の側面上部に把手を突設し、最下段のごみ容器の下面部にキャスターを設けて成ることを特徴とする請求項１記載のごみ箱。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、ごみ箱に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
近年ごみの分別収集が行われており、このため、ごみ箱としてごみを分別して入れることができるように上下方向に複数のごみ容器を着脱自在に重ねて構成したごみ箱が例えば特開平８－６７３０１号公報などにより知られている。
【０００３】

ところが、このように上下方向に複数の収納部を備えたごみ箱は容量が大きくなり、手軽に移動し難にくいという問題がある。

【０００４】

また、ごみを分別して収納するために複数のごみ容器を積み重ねてごみ箱を構成しているといえども多段に積み重ねるごみ容器の積み重ねる数は２乃至３個であり、分別数にも限りがあり、このため、家庭内でごみ箱内に分別して収納する際、一般に生ごみ、空き缶、空瓶等の重量が重いものをごみをごみ箱内に入れ、発泡スチロールなどで形成されたトレーのように軽いごみはポリ袋のような袋に入れて台所の隅などに一時的に置いている場合があるが、ごみ箱から離れて置くため見苦しく、また、別の所に設置する場所が必要であるという問題があり、更に、多段に積み重ねたごみ容器よりなるごみ箱部分において一箇所でごみを管理できないという問題がある。

【０００５】

また、移動しやすいようにごみ箱の下面にキャスターを設けるものが実開平５－５４４０１号公報により知られているが、上記の従来例にあってはごみ箱を引いて移動するに当たってはごみ箱の上開口縁を手で掴んでごみ箱を引いて移動する必要があって、移動操作がしにくいという問題があり、特にごみ箱を引いて移動するに当たってごみで汚れやすいごみ箱の上開口縁を手で掴んで引いて移動するため、手が汚れ、また、気持ちが悪いものであった。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は上記の点に鑑みてなされたものであり、ごみ箱の移動が手を汚すことなく簡単に行えるとともに、ごみ箱を移動する際に手を掛けるための把手を利用してポリ袋のような袋をごみ箱に引っ掛けてごみ箱部分で袋に入れるごみも管理できるごみ箱を提供することを課題とするものである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために本発明に係るごみ箱は、上開口部に開閉自在な蓋７を設けたごみ箱１の下面部にキャスター２を設けてごみ箱１を移動自在とし、該キャスター２付きのごみ箱１の側面上部に把手３を側方に向けて突設し、この把手３の突出先端部を上方に向けて突出してごみ袋引っ掛け部４とし、このごみ袋引っ掛け部４を蓋７の外端部の側方に隙間を介して位置させて成ることを特徴とするものである。このような構成とすることで、ごみ箱１を把手３に手を掛けて引いたり、押したりしてキャスター２を転動させて移動させることができるものであり、このようにごみ箱１を移動させるために用いる把手３の突出先端部を外側方に向けて突出して形成したごみ袋引っ掛け部４にポリ袋のようなごみ袋６の開口縁部に設けた手下げ用帯輪６ａを引っ掛けてごみ袋６内にトレー、包装紙、包装フィルム等の重量の軽いごみを入れることができるものである。

【０００８】

また、上下方向に複数のごみ容器５を着脱自在に重ねてごみ箱１を構成し、最上段のごみ容器５ａの側面上部に把手３を突設し、最下段のごみ容器５ｂの下面部にキャスター２を設けることも好ましい。このような構成とすることで、上下複数のごみ容器５にそれぞれごみを分別して収納することができるものであり、このようにごみを上下多段に分別して収納するごみ箱１において上段のごみ容器５ａに設けた把手３に手を掛けてスムーズに上下段に積み重ねた複数のごみ容器５を容易に移動することができる。

【０００９】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を添付図面に示す実施形態に基づいて説明する。

【００１０】

ごみ箱１の下面部にはキャスター２が設けてあり、また、ごみ箱１の側面上部には把手３を突設してあって、把手３に手を掛けてごみ箱１を引いたり、押したりすることでごみ箱１の下面部に設けたキャスター２を転動して軽い力でごみ箱１を自由に移動できるように

なっている。

【００１１】

添付図面に示す実施形態においては、合成樹脂製のごみ容器５を上下方向に複数（図では上下２つ）着脱自在に重ねてごみ箱１を構成してあり、最上段のごみ容器５ａ（図では２つのごみ容器５を積み重ねているので以下の説明では上段のごみ容器５ａという）の側面上部に把手３を一体に突設し（つまり把手３はごみ容器５ａと合成樹脂により一体成形してあり）、最下段のごみ容器５ｂ（図では２つのごみ容器５を積み重ねているので以下の説明では下段のごみ容器５ｂという）の下面部に別体のキャスター２を取付けてある。

【００１２】

ごみ箱１の側面上部に設けた把手３は図３に示すように平面視で略コ字状をしていて、ごみ箱１の側面上部より側方に向けて突出している。ごみ箱１の側面と略コ字状の把手３とで囲まれた部分が図２に示すように上下に貫通する手を入れるための空所となっており、略コ字状の把手３の突出先端部のごみ箱１の側面と対向する部分が上方に向けて突出していてごみ袋引っ掛け部４となっている。つまり、突出先端部４は上方に向けて突出することで、把手本来の役目である手掛かり機能だけでなくポリ袋のようなごみ袋６の開口縁部に設けた手下げ用帯輪６ａを引っ掛け保持するための機能を有している。

【００１３】

上段のごみ容器５ａの上開口部には開閉自在に蓋７が設けてある。ここで、図７に示すように上段のごみ容器５ａ内を縦仕切り板１２により２つのごみ入れ室に仕切り、各ごみ入れ室の上開口部をそれぞれ開閉する２つの蓋７を設けるようにしてもよく、この場合には上段のごみ容器５ａ内の２つのごみ入れ室内にごみを分別して入れることができるものである。

【００１４】

上段以外のごみ容器５は側面に側面開口部８が設けてあり、図１に示すように側面開口部から直接ごみ容器５内にごみを入れたり、あるいは図８に示すように側面開口部８からごみ容器５内に内容器９を引き出し自在に収納し、内容器９を引き出して内部にごみを入れるようにしたりするものである。内容器９の側面上部に内容器用把手部９ａが設けてあって内容器用把手部９ａを手で掴んで内容器９を引き出したり、押し込んで収納したりするようになっている。

【００１５】

上段のごみ容器５の側面部の下端部は全周にわたって内側に引き込んだはめ込み用周段部１０となっており、下段のごみ容器５の側面部の上端部は全周にわたって外側に張り出した被はめ込み用周段部１１となっており、ごみ容器５を上下に重ねる場合、上段のごみ容器５の下端部のはめ込み用周段部１０を下段のごみ容器５の上端部の被はめ込み用周段部１１にはめ込むことで上下に積み重ねるようになっており、この場合、図２に示すように、はめ込み用周段部１０の側面部１０ａに設けた外側方に突出する係止突部１０ｂが被はめ込み用周段部１１の側面部１１ａに設けた係止孔１１ｂに係合されることで、はめ込み用周段部１０と被はめ込み用周段部１１との着脱自在なはめ込みに加えて係止突部１０と係止孔１１ｂとの着脱自在な係止により上下段のごみ容器５を確実に連結することができる。また、はめ込み用周段部１０の側面部１０ａが被はめ込み用周段部１１の側面部１１ａに接触し、また、はめ込み用周段部１０の下端が被はめ込み用周段部１１の下段面部１１ｃに載置され且つ被はめ込み用周段部１１の上端にはめ込み用周段部１０の上段面部１０ｃが載置されるようになっており、これにより、上下段のごみ容器５ががたつくことなく積み重ねられ且つ上段のごみ容器５からの荷重を下段のごみ容器５で確実に支持することができるようにしてある。このように上下に確実にごみ容器５を積み重ね連結することで上段に設けた把手３に手を掛けてごみ箱１を移動させてもがたつきなく安定して移動できるものである。この場合、把手３はごみ容器５ａと合成樹脂により一体成形してあるので、把手３を手に掴んで移動させる際に何らの支障をきたすことなくスムーズに動かすことができる。

【００１６】

ごみ容器５の上開口部にはごみ容器５内に入れる袋の上端部を止めるための袋止め部材１３が回動自在に取付けてある。

【００１７】

また、添付図面に示すようにごみ容器５を上下２段に積み重ねてごみ箱１を構成するものにおいては、保管、搬送、陳列等において、下面部にキャスター２を有する下段のごみ容器５ｂを側面上部に把手３を有するごみ容器５内に出し入れ自在に収納できるような構成としてもよいものである。

【００１８】

図５にはその一例が示してあり、キャスター２付きの下段のごみ容器５ｂを上段のごみ容器５ａ内に収納した状態を示しており、下段のごみ容器５ｂを上段のごみ容器５ａ内に収納した状態で下段のごみ容器５ｂのキャスター２が上段のごみ容器５ａの内の底面に載置されるようになっている。このようにすることで保管、搬送、陳列等においてキャスター２が外部に露出して破損したりすることがなく、また、全体をコンパクトにできて保管、搬送、陳列等の場所を取らないものである。ここで、図５のようにキャスター２を含む下段のごみ容器５ｂの上下高さが上段のごみ容器５ａ内部の深さよりも短い長さとしておくと、完全にキャスター２付きの下段のごみ容器５ｂを上段のごみ容器５ａ内に収納できるものである。

【００１９】

しかして、上記のような構成のごみ箱１には種々の種類のごみを複数のごみ容器５に分別して収納するものである。ここで、ごみ箱１を移動するには把手３に手を掛けて引いたり、押したりしてキャスター２を転動させて移動させるものである。

【００２０】

また、上記のようにごみ箱１を移動させるために用いる把手３の突出先端部を外側方に向けて突出して形成したごみ袋引っ掛け部４には図６に示すように、ポリ袋のようなごみ袋６の開口縁部に設けた手下げ用帯輪６ａを引っ掛けることができるものであり、このようにしてごみ箱１の上端部に引っ掛けたごみ袋６内にはトレー、包装紙、包装フィルム等の重量の軽いごみを入れることができるものであり、これにより必要に応じてごみの分別の種類を増やしたい場合や、軽いごみをごみ箱１部分において一箇所に集めて簡易に収納したい場合等簡単に対応することができ、このようにごみ箱１とは別のごみ袋６にごみを収納する場合もごみ袋６をごみ箱１の把手３を利用して引っ掛けてごみ容器５を上下に多段に積み重ねて構成したごみ箱１部分で一元的にごみを管理できるものである。

【００２１】

【発明の効果】

上記のように本発明の請求項１記載の発明にあっては、ごみ箱の下面部にキャスターを設けてごみ箱を移動自在とし、該キャスター付きのごみ箱の側面上部に平面視で略コ字状をした把手を突設し、ごみ箱の側面と略コ字状の把手とで囲まれた部分を上下に貫通する手を入れるための空所としてあるので、把手に手を掛けてキャスターを転動させることで簡単にごみ箱を移動することができるものであり、把手に手を掛けることで手が汚れず快適にごみ容器を移動することができるものであり、しかも、略コ字状の把手の突出先端部のごみ箱の側面と対向する部分を上方に向けて突出してごみ袋引っ掛け部としてあるので、上記のようにごみ箱を移動させるために用いる把手の突出先端部を外側方に向けて突出して形成したごみ袋引っ掛け部にポリ袋のようなごみ袋の開口縁部に設けた手下げ用帯輪を引っ掛けてごみ袋内にトレー、包装紙、包装フィルム等の重量の軽いごみを入れることができるものであって、ごみ箱とは別のごみ袋にもごみを入れてごみ箱、ごみ袋をごみ箱部分において一元的に管理できて使用勝手が向上するものである。

【００２２】

また、請求項２記載の発明にあっては、上記請求項１記載の発明の効果に加えて、上下方向に複数のごみ容器を着脱自在に重ねてごみ箱を構成し、最上段のごみ容器の側面上部に把手を突設し、最下段のごみ容器の下面部にキャスターを設けるので、上下複数のごみ容器にそれぞれごみを分別して収納することができるものであり、このようにごみを上下多

段に分別して収納するごみ箱において上段のごみ容器に設けた把手に手を掛けてスムーズに上下段に積み重ねた複数のごみ容器を容易に移動することができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明のごみ容器の斜視図である。

【図２】同上の正面断面図である。

【図３】同上の平面図である。

【図４】同上の分解斜視図である。

【図５】同上の上段のごみ容器内に下段のごみ容器を収納した状態の断面図である。

【図６】同上の使用状態を示す斜視図である。

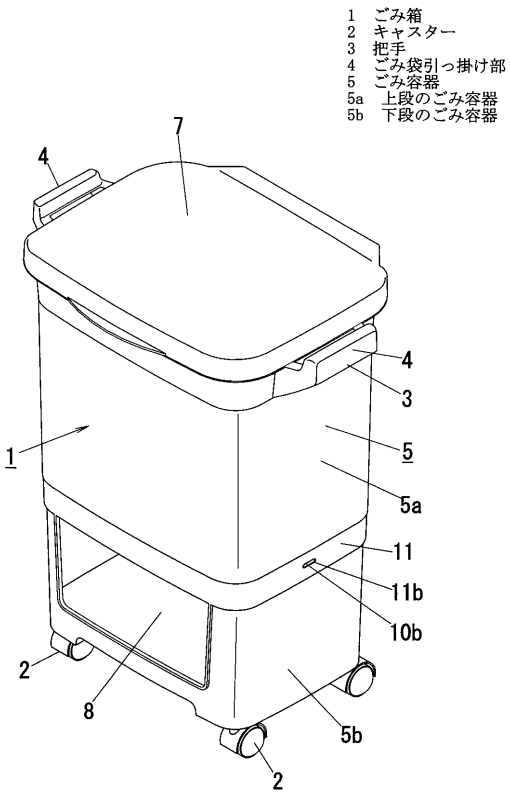
【図７】本発明の他の実施形態の斜視図である。

【図８】本発明の更に他の実施形態の斜視図である。

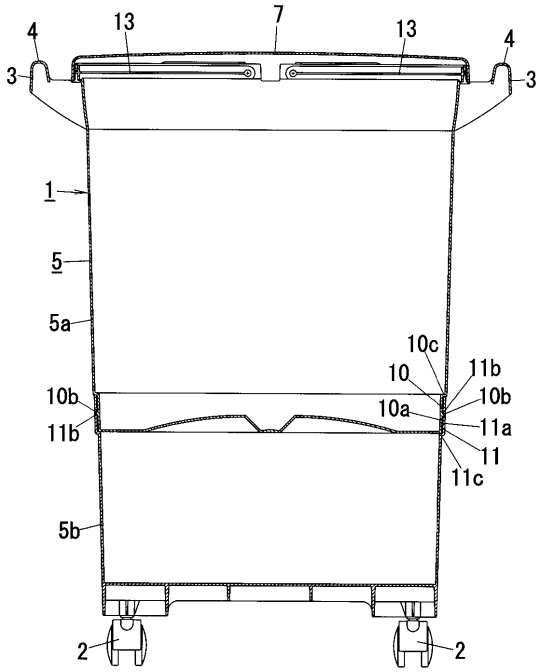
【符号の説明】

１　ごみ箱
２　キャスター
３　把手
４　ごみ袋引っ掛け部
５　ごみ容器
５ａ　上段のごみ容器
５ｂ　下段のごみ容器

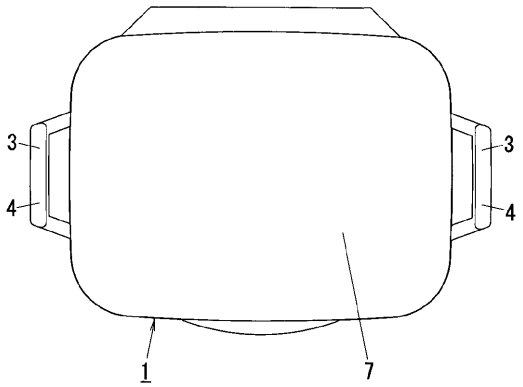
【図１】



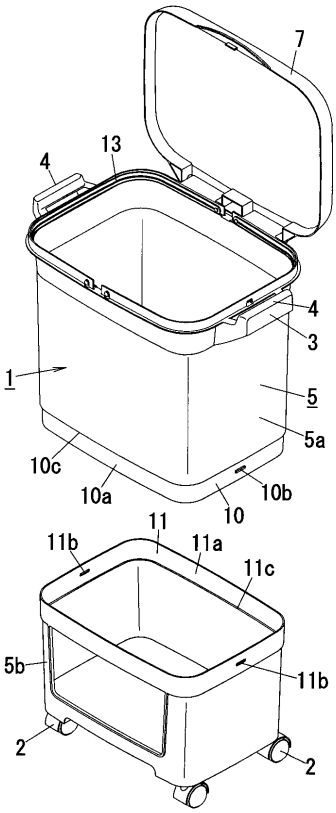

【図２】



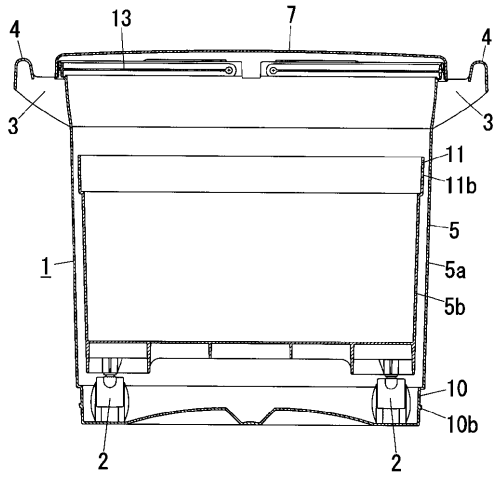
【図３】


3
3
4
4
1
7

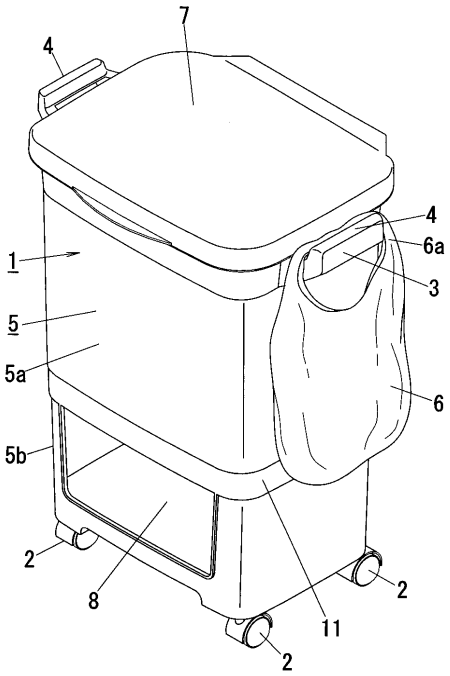
【図４】


7
13
4
4
3
1
5
5a
10c
10a
10
10b
11
11b
11a
11c
5b
11b
2
2

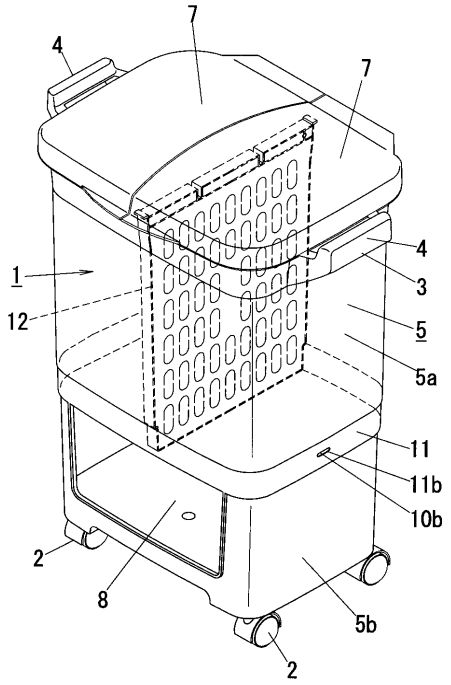
【図５】


4
13
7
4
3
3
11
11b
5
1
5a
5b
10
10b
2
2

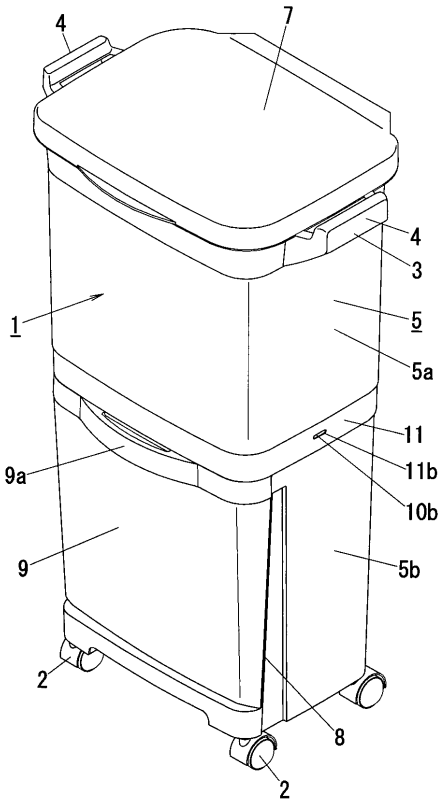
【図６】


7
4
4
6a
3
1
5
5a
6
5b
2
8
11
2
2

【図７】




【図８】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０８－２４４９０４（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１５９３０１（ＪＰ，Ａ）
特開２００１－０３１２０２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65F 1/00-1/16